

『NEW TREASURE 研究会 大阪会場』実施レポート

日時	2018年8月26日（日）13:35-14:20
場所	TKP大阪梅田駅前ビジネスセンター3F ホール3A
■プログラム ○13:00～ 受付開始 ○13:35～14:20 【講演①】 Active Language User の育成を目指して～海外研修を目標とした活動の設定～ 立命館守山中学・高等学校 吉本 恵子 先生 ○14:25～15:10 【講演②】 『男子脳×NEW TREASURE』 ～Stage1～3 を使った英語科の取り組みと Stage1、2 を使った授業実践ついて～ 修道中学校・修道高等学校 藤島 真介 先生 15:10～15:40 休憩（情報交換フリータイム） ○15:40～16:25 【講演③】 生徒の活動を中心とした「生きる力」を伸ばす授業展開 ～NEW TREASURE Stage1～Stage5 まで～ 追手門学院中・高等学校 田橋 知直 先生 ○16:30～17:00 【講演④】 Stage4 を活用した 4 技能型指導モデルのご提案／Z 会の新課程への対応について 講演者：弊社 開発部指導課スタッフ 【第1部】 Active Language User の育成を目指して ～海外研修を目標とした活動の設定～ 講演者：立命館守山中学・高等学校 吉本 恵子 先生 ■学校紹介 ・滋賀県にある本校は、4 番目にできた立命館大学の附属校。開校10年目ではあるが、毎年先生同士で話し合いながらブラッシュアップをしつつ教育を行っている。 ・6 年間のロードマップとしては、フロンティアコースが外部の大学を受験、アカデメイアコースが立命館大学に進学する形だが、英語を教える内容に大きな差異はつけておらず、どちらのコースも『NEW TREASURE』Stage1～3（以下「NT」）を使って授業をしている。 ・SSH指定校になって「発表に向けて英語を確認してほしい」というような依頼もあり、英語科も忙しい。普段学んでいる英語を使う機会が増えている。 ・グローバルサイエンスリーダーの育成がミッション。 ・ICTの導入も進んでおり、中1～高3で1人1台iPadを所持。生徒が音読やスピーチの内容を録音・録画して、教師に送るような取り組みも。ICTを取り入れたことで、1人ひとりを	

見ることができるようになったと感じている。

■ どうやって英語を使わせる？

- ・ 英語を将来使う場面を意識させているか？
→ 「無理やり使わないといけない場面を提供しよう」 ということを意識している。
- ・ 中3で設定しているハードルが、ニュージーランドで学年 160 人全員が 1 人 1 家庭でホームステイすること。不安を感じる生徒も多いが、生徒 1 人でどう survive するかを鍛えてほしいという願い。
- ・ 中2では、もう少し自分たちに寄せたトピックで、調べ活動をするような設定。
→ 自分で話さなければならないという場面の設定。
- ・ 中1は、留学生との交流。最近の留学生は、自国の写真や衣装などを持ってきて自分たちのことを伝えようという姿勢・意欲が見られるので、そういう姿勢を学ぶよい機会になっている。生徒は単語単位での会話になることも多いが、英語が通じたという体験が自信につながっている。
- ・ 「英検準 2 級を持っている生徒 = NT を使っていても物足りない生徒」に対して、Expert Program を行い、高校レベルの学習を受益者負担で行っている。
- ・ Catch Up Program = 補習。大学から呼んできた教員志望の学生に行ってもらうことも。
- ・ 洋書多読→iPad でオンライン読書をする生徒も。

■ 本校の英語教育で目指すもの

- ・ Active Language Learner（主体的に言語を用いて相手に思いを伝える、あるいは相手を傾聴して理解しようとする）になることを 6 年間通じての最終目標にしている。
- ・ 各学年 6 単位で、うち 1 単位でネイティブとの TT（NT の Communication のパート）、残り 5 単位は NT 本文での学習。

■ NT 導入

- ・ 2014 年に中3で Stage2 を導入したのを皮切りに、年次進行で利用学年を広げた。
- ・ 使いはじめてよかったのは、英検取得率が上昇したこと。検定教科書で学べないことも、NT では学べるので、3 級・準 2 級にきっちり対応できる。
- ・ 検定教科書だと生徒はだれるが、NT だと語彙が多く入っているので学習意欲につながっている。

■ NT を使った授業

- ・ 1 つの定期テストごとに 2.5 レッスンずつ進んでいる。
- ・ 1 つの Grammar について 2 時間かける。最初の 1 時間は帯活動や Intake 活動。次の時間で Key Points（以下「KP」）テスト&本文の音読内容理解&自己表現活動。

■ 帯活動例

- ・ 本校の生徒は、初見の英文から内容をつかむ力が弱いので、速読教材も使用。WPM×正答率を視覚化している。

- ・ 中学校から初めて英語に触れた生徒はリスニングが弱いので、リスニングのドリルも。
- ・ Picture Describingでは、より詳しく説明できる後置修飾や関係代名詞などが使えるようになっているので、英検の2次試験のイラストを提示して1対1の面接をし、どういうところが総合的に弱いのかを知る機会を設けている。
- ・ (Z会への要望) KPは社会人でないと場面がわからない英文がある(システム会社に勤めている、など)。もっと生徒の日常生活に寄り添った内容にしてほしい。

■家庭学習

- ・ 教科書の内容をノートにまとめることを中心にさせている。KPの内容理解など。

■授業実践

- ・ ちょうど文化祭準備で滋賀県守山市について調べることをやっていたので、その内容を英語で紹介しようという課題を出した。しかし、学んでいた表現を使いにくいタスクや、まだ学んでいない表現を使う必要があるタスクを出題してしまったことは反省…。

→新学習指導要領にあるような、「目的や場面、状況」、「相手がどんな背景知識を持っているのか」を念頭に置いたタスク設定が必要と実感。

→ニュージーランド研修で起こりうることと合致しているので、中3からは活動内容を変えた。伝えようとする姿勢+伝えたいこと+相手への理解・配慮=Active Language Userへの第一歩。

- ・ 過去にはアルバム作りをしたこともあった(写真やイラストにコメントを添える)。
→作ることが目的になったことも…。

■自己表現活動

～Stage2 L11のテーマを例に～

- ・ 週末のパーティーに来て行く服や持って行くものをホストファミリーにたずねる
- ・ ポストカードの送り方をホストファミリーにたずねる
- ・ 今日学んだことを用いて、どのように「日本語(という言語)」をホストファミリーに紹介するか
- ・ 何のためにこれを読ませるか→どんなアウトプット活動につなげるか、の思考の順番が大事。

例) 「どんな課題からめがねが発明されたか」の問題提起→ジグソーリーディング(パート別に担当を与え理解し、自分たちのグループに持ち帰って共有)→自分の抱えている課題解決のために何を発明するかをプレゼン(ほかの生徒たちも興味をもって聞くことにつながる)

■他附属校との交流

- ・ NT Societyという勉強会の立ち上げ。
→NTの本文を出さないテストの作成(丸覚えさせることを避ける。2人で会話しているスクリプトなら、1人称の文章に書き直して出題するなど)などのアイディアが出る。

■今後取り組みたいこと

- ・ 3年で3冊は本校では厳しい。中3の夏休みまでに、Stage2がやっと終わる。Stage3をどうするかを考え中。
- ・ 即興のやりとりや発表をどう伸ばしていくか、どう測定するか。
→授業まるまる1時間をTTで、それぞれがどんどんインタビューをしていくなど。1学期に1人1回はネイティブと話す機会を設けようと検討中。

質疑応答

Q：洋書を読む取り組みで、どんなレベルのものを読んでいるのか？

A：中1は、絵本の形式から始めるが、読める生徒は海外のティーンエイジャーが読むようなものも読んでいる。オンラインで、レベル別診断テストを受けて、レベルに合ったものを読めるようなシステムを導入している。

Q：中3でニュージーランドに2週間行くということだが、NTの内容が実際に現地での生活に役立ったと感じた部分はあるか？特に、NTはスピーキングの要素が薄いと思うので、工夫されている要素があればうかがいたい。

A：日本語（という言語）の紹介をする内容は、モデルにもなっている。また、Farewellのシーンで発する発言の部分も、「こんな言葉がけをしたらいいんだ」という参考になる。教師自身も、生徒に対して、この表現はこういうとき使えるよね、という声かけを積極的に行っていくと反応がよい。

Q：アウトプットにつなげる教材で、めがねは内容的にも単語や文法的にも難しかった印象だが、内容理解をきっちりやった後に取り組んでいるのか、あるいはそうでないのか。また、あの発表にどれぐらいの時間かけているのか？

A：アカデメイアコースにとっては難しすぎるし、イメージがつきづらいということで、そもそもこのレッスンを行っていない。フロンティアコースは読み応えをあるところをやらせたいということで行っている。ただし、定期テストには出さず、文法の説明もかっちりやっていない。トータルで3～4時間程度、発表にかけている。Readの内容によって、内容理解の問題を解きながら理解していくという回もあるし、語彙も文法も説明しない回もある。

【第2部】

『男子脳×NEW TREASURE』

～Stage1～3 を使った英語科の取り組みと Stage1、2 を使った授業実践について～

講演者：修道中学校・修道高等学校 藤島 真介 先生

■学校紹介

- ・修道は私立の中高一貫男子校。
- ・規模：48 人クラス×6 クラス×6 学年
- ・英語は2 クラスを3 分割した少人数学級(32 人)で行っている。
- ・授業ではスクリーンに NEW TREASURE（以下「NT」）のデジタル教材を投影している。
 - ↳黒板に書く必要がないし、音声もボタンで再生可能なのでスムーズ。
- ・月～金ではなく、A～F 曜日としてカリキュラムを組んでいる。
- ・ネイティブ教員は専任が1 名のみ。帰国子女の教員はいる。
- ・Speaking を意識した授業システム。
- ・ICT の導入。
- ・進度はあえてトップスピード。中2 の12 月頃に Stage2 終了の進捗目標。
 - ↳1 回の定期テストで4 レッスン分。
- ・中3 秋に希望者全員がオーストラリア留学。
 - ↳ペアでホームステイ（大学は UNSW）をする。

■男子校&男子脳

- ・理系が強い→文系増により6 年生（高3）は文：理＝50：50 くらいだが、理系脳の生徒が多い印象。
- ・数学が好きな生徒が多い。
- ・暗記よりも、問題解決・課題解決のように解決できるものを好む。
- ・音読・CD は面倒に感じている様子。
- ・ルーティーンを行っているとマンネリ化してくるので、打破するのが課題。
- ・男子ならではのメンタルバリアもどのように取り去るかも課題。

⇒男子脳と NT をどのように掛け合わせていくか。

■NT の特徴

- ・NT は日本一難しいと思っている。
- ・教科書ガイドがない→家庭や塾で教科書ガイドを購入して学習することができない。
- ・デジタルテキストや Online 英会話が充実している。

■男子脳×NT

- ・NT の難しさを発破に転換（検定教科書よりも難しいことに燃える）
- ・男子校は全国で3%と、圧倒的 Minority。→共学や女子校への対抗心を利用。
- ・あえて速めの進捗で鼓舞している（公立中学の1.6 倍で進んでいると言っている）。
- ・数学的要素を多めにしている（文構造などは記号化して提示など）。

- ・競争も煽る(音読の wpm や資格試験の Score)。

↳ライバル意識を持ちながら取り組む。

⇒結論としては NT を使ってよかったと思っている。しかし…

NT は

- ・新出単語が多い。
- ・難しすぎることもある。
- ・Read の分量が多いことがある。(新出単語や文法事項も多数出てくる)
- ・Key Points (以下「KP」) には文法解説が高校範囲まで入っている。
 - ↳音読・単語…さまざまなバリエーションがある。

⇒そのバリエーションを取り去るために…

取り組み① = 高校生用単語集の使用

- ・中学総復習～高校初級レベルの単語集(1300 語)を採用
 - ↳1 年間で 3 周。1 週間で 100 語ずつのハイペース。
- ・1 年間はつづりの正確さまで要求せずに、単語の日→英レスポンスのみ。
- ・つづりは定期考査でも要求しない。
- ・書いて覚えたい子には limit をかけない。
- ・ねらいとしては「新出→既知→安心感」。授業で新出文法にフォーカスできる。
- ・NT ワードリストでも応用可能。

取り組み② = 音読する雰囲気づくり

- ・音読：帯活動として、単語を言えた人から座れるようにしている。
 - ↳KP 本文であっても、読めた人から座らせるようにしている。
- ・タイムトライアルや対抗戦だと燃える。
- ・クイックレスポンスで大きな声で練習している様子。

取り組み③ = 自主トレノート・予習ノート

*** 自主トレノート**

…1 日 1 ページ：教科書内容の練習

→写経のようにただただ書いてくることを防ぐため、CD を聞いてディクテーションも行うよう指示している。

*** 予習ノート**

…和訳のレベルを強化するため。ノート見開きで英文を書写。辞書と教科書を使って、和訳も作成する。

→ノート作成のもくろみとしては量のバリエーションを壊すこと。

取り組み④ = 英作文 10 本ノック (補足資料①)

- ・なるべく文法用語を少なくし、KP よりもなるべくミニマムな作りのワークシートを活用。
↳ターゲット文法だけにフォーカスして単語のレベルを下げたものを用意。

⇒ここから、どのように Speaking や Writing につなげていくか。

■守/破/離

* 守

- ・ラン…単語力徹底
- ・ゴロ・フライ取り…NT 文法徹底
- ・素振り…自主トレノート (1 日 1 ページの自主練)

* 破

- ・ノック…長文練習 (Read) →意味がとれるか、要約ができるか。
- ・バッティング練習…KP 例文ではない (いろいろな球での) 英作文練習。

* 離

- ・紅白戦…自由英作文 / プレゼンテーション / Read でない英読
- ・対外試合…外部模試 / Online 英会話 (東南アジアの生徒と会話) / 留学体験

■自由英作文について (自主トレノートの最後)

- ・中 1 で 1 行英作文の宿題 (自由に)。中 2 で 2 行英作文の出題。
- ・中 2 では週末にお題英作文 (70~100 語程度) を課している。
- ・中 1 から定期テストでは毎回自由英作文の出題
→白紙で出す生徒はほとんどいない。
- ・最初は質 < 量 → 中 2 からは質 & 量

* お題の例 :

<中 1 時代>

「自分の趣味」・「友達紹介」・「好きな〜」・「学校紹介」

<中 2 時代>

「広島が一番おすすめスポット」・「女性専用車両の是非」・「どんなロボット欲しい?」・「サマータイム是非」

→社会性も一緒に身につけてほしいねらいもある。

* プレゼンテーション

- ・週末課題である 70 語程度のスピーチを 30~40 秒程度で。
→wpm140。Feedback 込みで 32 名を 30 分以内で実施。ただ検印するだけではモチベーションも下がるので、プレゼンを課している。

* 今後

- ・ Read や長文の要約をプレゼン（中3は全員 PC 購入）
- ・ ICT 活用でネットリサーチ&パワポプレゼン
- ・ 時間がないときは 1 分交換日記。

→お題英作文を交換して 1 分ずつ作文を交換・音読・Chat。自ずとフィードバックし合っている。生徒は、文法も正確にしないと伝わらないことを実感している。

■ Small Tips

- ・ Quizlet を活用してオリジナルフラッシュカード作成
- ・ じゃれマガの活用：短い中学生文法レベルの英文メーリス
- ・ 音声読み上げサイト ENGLISH TEXT TO SPEECH の活用
→ネイティブのようなきれいな発音で読み上げてくれる。

■ 今後のアイデア

- ・ LINE のような形式での英作文（数学の先生からの Tips）
- ・ 生徒発信の英作文チャレンジ
- ・ 小学校の国語の教科書を英訳（9月から実施予定）「カエル君とか」

最後に…

どれだけ TEACHER KILLERS が出てくるか。

質疑応答

Q：超高速で進めているということだが、Critical Thinking や Communication のパートは扱っているのか。

A：重要な内容であることは認識しているが、ペースの関係でとばしている。

Q：スピードが速いということだが、担当の先生が6年間持ち上がることは決まっているのか。そのスピードで進むのは一部の学年だけなのか。そのスピードで進むことを先生はどう感じているのか。

A：中1・中2は早く進めていき、数値（資格試験）で自信を持たせる。中2の1～3月や中3のときに高校入試レベルのものを解いたりして総復習しながら欠けているところを補っていくという想定。持ち上がりについては、自分の中3→高1→中3→高1→中1→中2（現在）。以前は持ち上がりでいこうという流れだったが、マンネリ化を防ぐためにも2年ごとに切っていることもある。感覚的には15～20%程度は持ち上がるが、それ以外は替わる。個人的には持ち上がったほうがよいと思う。進度が速いことは、しんどい部分もあるが生徒の自信になっている面もある。

Q：単語について、高校レベルのものを中学1年生からやっていることが興味深かった。レスポンスのみでやっている時期は、どのように確認テストをやっているのか。

A : 1 週間で 100 語やる時、月曜に 50 語、火曜に 50 語をいったん頭に入れて、水木金は授業内にゲーム感覚で身につけていくイメージ。週明けに語義の 4 択形式で出題。スピーディに解かせていく。2 順目は引っかけりそうな単語を散りばめてレベルを上げながらやっていく。中 2 になってようやくつづりに入っていく。

【第 3 部】

生徒の活動を中心とした「生きる力」を伸ばす授業展開

～NEW TREASURE Stage1～Stage5まで～

講演者：追手門学院中・高等学校 田橋 知直 先生

■最近の関心ごと

- ・ EdTech×未来の教室→越境：公教育×民間教育（×行政）
- ・ 学びの個別最適化×協働学習×PBL
- ・ SDGs、とりわけ4.7：Global Citizenship
- ・ 海外の中高生の授業（学ぶ意欲・姿勢の充実）、そして日本の学生とつなげること
 - 現状の授業展開では限界があり、海外とつないでいかないと話す力は伸びないのではな
いか。
- ・ 何のために教育をするのか、なぜ学ぶのか？
 - 自由の相互承認を実現するため（苫野一徳氏）

「全ての子供たちが、「できるだけ納得して」、さらに「できるなら満足して」生きたいように生きられるということを＜自由＞と定義すると、その＜自由＞を実感するための学ぶ力を育み、それを保障することである。ただし、＜自由＞の相互承認の感度を育むことが土台にある。」

 - ①お互い相手が自由な存在であることを認め合う。
 - ②自分にとっての正しさは他者に承認されて初めて正しいと言える。
 - ③自由への相互承認の感度を高める
 - ④と同時に、自由を実感するための学ぶ力を身につける必要がある。
- ・ 心に留めている 6 つの問い
 - 入試を終えて、受験教育を除いて残るものは？
 - 今の教育は10～20年後の子供たちのことを考えているか？
 - 公教育である学校は、勉強する場？（Society3.0） 学習する場？（Society4.0）
学問する場？（Society5.0）
 - 何のために協働学習や学び合いをするのか
 - 見捨てられている生徒はいないか？
- ・ 生徒からの「何のために役に立つか？」という質問
 - 授業が面白くない、わからない、という先生に対するメッセージ。「興味や関心がわく」「面白い」「分かる・できる」などの実感があれば、能動的に学ぶようになる。

■ NEW TREASUREについて

- ・「SSコース」（難関国公立大に進学するコース）という1クラスで20数名という少人数クラスで使用。中学は五ツ木・駿々堂で偏差値45～50。高校は五ツ木模試で5教科で63～65。
- ・中2が終わる段階で英検3級に合格しないのが毎年1名。中3段階では6.5～7割の英検準2級合格率。英検準1級は高3生が1人。
- ・中学は週6単位、高校はぐっと減って週3単位でNTを使っている。

■ Stage 1～2の基本スタイル

- ・音に特化したAll English。
- ・必ずしもずっと英語を生徒が使っているわけではない。生徒が音読をしているか、先生がしゃべっているかのどちらか。ノートはとらせない。
- ・All Englishだが、中1時点ではついていけないので、文法問題集などを週末課題として使いながら、英語を理解させていく。
- ・英語を好きになること、好きであり続けることに主眼を置く。

■ 好きになる仕掛け

- ・好きなものから入って、勉強に没頭できるようになるのがベスト。例えば、音楽を聴きながら勉強し始めるが、途中でうるさく感じるようになり、音楽を止めて勉強をする、というのが理想。
 - 英検の2次試験のイラストなどを活用し、最初の10分で「楽しい時間が始まる」という暗示にかける。
 - 自分の学びの足跡を記録・更新、成長と課題を可視化＝ポートフォリオとして残す。授業の最初の10分間活動でスピーキングしたものを自分の頭で考えたものは必ずポートフォリオに残して振り返らせる。間違えても教師が直さない。数カ月後に自分で振り返って自分で添削できるので（賛否両論あるかと思うが）。丸をつけるのは定期考査でもできる。

■ All Englishでこれまでやってみて正直なところ…

- ・文法事項まで英語で説明する必要ある？
- ・書く指導の強化タイミングはいつがよい？
- ・つづりを覚える、問題集を解く、などのいわゆる「勉強」の習慣はなさそう。単語については必要に応じて生徒が各自やってくれているが。
- ・英文和訳を1回もやっていないので、問題形式として出題されたときに、追いつくか心配。

■ Stage3のReadについて

- ・Readのハンドアウトを用いながら行う。T/F問題から入り、ひたすら音読。英問英答を作成するペアワークなども。

■Stage 4の基本スタイルと目指すところ

- ・高校からは週3単位に減るので、高2の終わりまでにStage 4をやり終えるような状況。
- ・速読を目的とした活動をベースに、精読やディスカッションは日本語で行い、アウトプットやディスカッションは英語で。
- ・過去にAll Englishでやっていたが、まったく議論が深まらない状況だった。
- ・目指すところは、やりとりをするだけでなく、その中から新しいものを創造する（自身の意見が進化する）こと。これがコミュニケーションの醍醐味。単に発表するだけのプレゼンではなく、それが題材となって議論を呼ぶようなものに。

■Stage 4のよいところ

- ・Stage 5まで通したシラバス（Stage 4ではサマリーが書けることに重点）がある。
- ・Project型学習にちょうど良いレベルである。
- ・テーマがはっきりしており、それぞれに適した教材に加工しやすい。

■Stage 4のグループ活動の際に行うこと

- ①ゴールの共有
- ②活動をグループで振り返り、メンバーの評価を行う。（説明ばかりすることが大事ではなく、質問をする役割なども大事、などを理解してもらう）
- ③次回までの役割分担の確認
 - これらも自分たちで書いたものなので、ポートフォリオにする。プロセスを可視化できるようなワークシートや評価シートを活用している。

■Stage 4の実践例

- ・生徒の発表で「こんなところに関心を持ちました」だけで終わらせない。
 - 自分たちなりにどのように解釈をし、今後どういうふうにしたいと思ったか、あるいは、こういうところに疑問を持った、などまでつなげていく。
- ・Lesson 6 英語ディスカッション
 - 日本語グループプレゼンの中で、本筋（消費者としての在り方を提案）とは違う内容だったが、テレビやスマホなど物質的に豊かになる中で、逆に視聴時間が長くなって視力低下を招くなど、失うものがある、という話が出てきた。せっかくなので次回そのテーマで英語でディスカッションしてみよう、というところにつながっていった。しかし、（大事なテーマだったが）やはりまだそこまでの英語面での技量は生徒にはなく、議論が深まらなかったのが実情。

■まとめ

NTシリーズは・・・

- ・安定したシラバスのもと、6年間(普通は5年間)で国公立受験の実力をつけられる。
- ・「読んで終わり」でなく、多角的に考える力をつける内容。
 - Stage 3までで積み上げてきたものが、Stage 4で花開く！

<NTシリーズを通しての成果>

- ・主体的に自分の人生を切り開こうという生徒を育てられている。
- ・わからないものはわからないといえる、助けを求められる、といった環境になった。
- ・その代わり、自分にできることで他者を支えようというマインドを育てられた。

<今後の課題>

- ・上記の成果の「到達度」をどう測るか。
- ・上記の成果を主眼に置いているので、逆にAll Englishの授業からは離れてきている。
- ・「即興の英語」の成長速度が鈍くなってきている。

■追手門学院が来年新しくなる

- ・NT×SDGsを新しい追手門学院でやってもおもしろそう。
- ・図書館をなくした。図書館があると本好きな子しか行かないため。全館に図書を配置して、本との偶然の出会いを大切にできるようになっている。
→ぜひ見学をお待ちしている。

質疑応答

Q：NTの扱っている題材として、検定教科書と比べてどのようによいか。

A：高校の検定教科書をあまり見ていないが、NTは語彙がしっかりしていることと、SDGsの番号を1個ずつ紐づけていくと、総合学習と絡めてできそうなテーマがあるところ。

Q：中3でStage 2をやるが、PBLはできるか？

A：できると思うが、Stage 3でやっているのは、PBLまでは行っていない。ただし、Stage 4でPBLをやるのが前提であれば、その準備段階としてStage 3のReadが使える。その場合、Stage 3・Stage 4をセットで使っていくのが必須。

以上